

飛 翔

石川県立金沢西高等学校同窓会

〒920-0344 石川県金沢市畝田東3-526
TEL 076-268-4321/FAX 076-268-7329
URL <https://www.ishikawa-c.ed.jp/~nishih/>



コロナ禍でも絆を求めて

同窓会長 大畑 晃一

(5期生 昭和56年卒)



同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より同窓会活動に対し、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は、1981年(昭和56年)3月に第5期生として卒業いたしました。当時は新設校として実績も乏しく、金沢西高としての学校の評価や卒業生を含め、生徒である私たち自身の評価は正に未知数の時代であったと思います。想えば、旧校舎に設置されていた「飛翔」像が、私たちに臆することなく、自由に羽ばたき飛び回れと後押しするようにエールを送ってくれていたような気がします。

時の流れは早いもので、親子二代で金沢西高生という世代も見られるようになった今、令和5年には創立50周年という大きな節目を迎える石川県立金沢西高等学校となります。自由かつ未来志向の校風が、次代の生徒達の気概として、また先生方の熱心なご指導のもと連綿と引き継がれ、母校の歴史として毎年刻み込まれ今日に至っていることは卒業生の一人として嬉しい限りであります。

その校風が色褪せることのないように、同窓会として母校に対する支援事業においては学校・PTAと共に協議を交えながら積極的に対応して参りたいと思います。

本年、新型コロナウイルスの影響で、同窓会入会式を始め、卒業式や入学式への参列ができない状態でした。従って、同窓会としまでも理事・幹事が集まっての総会は開催ができないのが現状です。このようなコロナ禍にあっても我々の同窓会は、社会における会員相互のネットワークにより、先輩、後輩の垣根を越えてビジネスに限らず、いろんな場面での効果が期待されます。また、母校の発展と同窓会の更なる活性化にも繋がるものと確信しております。

今後とも同窓会の活動に対しご協力ご支援をお願い申し上げますとともに、同窓会会員の皆様の益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

挨拶

学校長 垣地 正樹



同窓会会員の皆様、はじめまして。今年度本校に赴任しました、校長の垣地正樹と申します、よろしくお願いたします。皆様には、平素より、本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本校は、昭和49年に開校し、15,000名を超える卒業生が、各方面における有為な人材として、県内外で活躍しています。平成8年度に、本県の全日制普通科では初となる単位制システムが導入され、平成25年度からは学年制へと移行し現在に至っています。平成31年度からは「高等学校における探究型学習推進事業」の指定を受け、探究的な学習の充実に努めています。探究型授業スキルの向上やICTの効果的な活用等、学校連携による授業改善や進路指導研究によって、卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成を目指しています。

また本校は、進路実現には不可欠な心身の錬磨による人間力の向上のために、部活動の活性化にも積極的に取り組んでいます。現在、20の運動部と16の文化部・同好会があり、恵まれた施設設備のもと、熱心に活動しております。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、夏の甲子園大会や全国高校総体・総文という部活動の集大成が失われました。一部の部活動で県予選の代替大会が開催されたものの、高い目標を掲げ、多くの時間と情熱を部活動に注いできた生徒にとって、全国大会の中止は残念でなりません。これまでの経験や努力、培った人間力を今後の糧にしてもらいたいと切に願っております。無観客で開催された新人大大会では、陸上部やフェンシング部、空手道部が北信越大会への出場を果たしています。学校行事も中止や延期を余儀なくされる中で、初めて体育祭を開催した西高祭は、成功裏に終わることができました。生徒たちは主体的かつエネルギーに取り組み、改めて西高生のパワーを感じた日となりました。また、生徒たちは、地域の一員として、これまで清掃活動や紙芝居制作・子どもたちへの読み聞かせなど、さまざまなボランティア活動を続けてきております。地域に信頼され、いしかわの未来を拓く人材の育成を目指し、また、生徒には母校に愛着を持ち、誇りをもって卒業できるように、職員一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、本校の教育活動に対して、ご理解とご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

母校の様子

～部活動状況～

■ 野球部

チームでミーティングをしてオフシーズンに向けて自分の苦手や苦しい事から逃げないこと、三年がリーダーシップを持ちチームを引っ張ることを大切にしようと話し合いました。夏の甲子園につながる選手権を迎え、一回戦の松任戦ではコールドで勝つことができ、新チームになってから公式戦で初めての勝利を上げることができました。

■ 男子バスケットボール部

県内ベスト4という目標で新チームがスタートしました。不安はあったもののバスケを思う存分できる期待は大きかったです。新人戦では二回戦に県内ベスト4である市立工業高校と対戦をしました。この試合をきっかけに自分達に足りないものは何か、今すべきことは何か、ということを考える良いきっかけとなりました。総体では少しでもこのメンバーでプレーできるようにと挑んだものの、結果は悔しいものとなりました。それでも多くの経験は自分達が成長できる糧となったと思います。

■ 女子バスケットボール部

張江杯ではベスト4を逃し、とても悔しい思いをしました。そして高校総体。準々決勝では再延長まで続くとても苦しい試合でした。終始試合の流れは相手チームで一点を争う試合の中で、これまでの厳しい練習を乗り越えてきたからこそ「絶対負けない」という強い気持ちと集中力で諦めず粘り勝つことができました。この接戦を勝ち抜いたことはチームにとってとても大きな自信になり、最後まで気を引き締めて戦い、北信越出場を決めることができました。

■ ラグビー部

現在は少人数のため、他の県内の少人数校と合同チームを組んでいます。昨年度は一年を通して合同チームで多くの練習・経験を積み重ね、ライバル校との差を詰めましたが、最後の試合で引き分けに終わり非常に悔しい思いをしました。しかし、少人数・合同という状況で学校・学年関係なく切磋琢磨し合っ得たものは高校三年間の一番の宝物です。また、北信越選抜に選ばれたことや国体の練習に参加させてもらったのもラグビーでしかできないとても良い経験でした。

■ サッカー部

三年生になり迎えた総体。一回戦は、チーム一丸となり寺井高校に大差で勝つことができました。二回戦は、県二位の金沢学院。あきらめず最後まで戦い、チャンスも作りましたが、得点は奪えず負けてしまいました。結果は、目標とほど遠いものとなりましたが、それ以上にサッカー部のみんなと一つの目標にむかって努力してきたことが、自分にとってかけがえのないものとなりました。

■ 男子バレーボール部

新人戦が近づくとつれてチーム全員が緊張感を持ち大会に挑むことができました。意識を高くもってきたおかげか、予選の一試合目はフルセットで負けましたが、すぐに切り替えて敗者復活戦でストレート勝ちして本戦へ進むことができました。県総体では最後に県一位の小松大谷に敗れましたが、ベスト8という結果を残せました。三年生はこの約二年間を通して、多くの人に支えられたくさんのことを経験し成長できたと思います。

■ 女子バレーボール部

部活動をふり返って思い出すことはもちろん試合で勝って嬉しかったこと負けて悔しかったこともありますが一番はチームの仲間との交流です。最後の試合が近づくに緊張やあせりもありましたが、皆が温かくてお互いのことを考えている部活はないなと思いました。レシーブをミスしたボールをカバーしてくれようとする仲間がいました。コートの外からその人の名前を必死に呼んでくれる仲間がいました。この高校の部活動であらためてバレーボールの魅力に気づかされました。

■ 陸上競技部

迎えたのは駅伝競走です。自分達が取れるであろう最高順位の五位に入賞を果たすことができました。七人の汗が染み込んだ裡を受け取ったときに感じられた喜びは格別でした。そして迎えた最後の総体。多くが悔し涙を呑む結果となってしまいました。後悔しないようにと誓った二年後でしたが、自分が流したのは悔し涙でした。誰もが賞賛できるような凄い結果は残せなかったけれど、みんなと一緒に練習できて本当に良かったです。

■ 空手道部

新人戦の団体戦では北信越大会出場を決めることができました。総体の頃には男子も協力して練習に取り組み、女子もお互いに励まし合い、高校生活最後の大会に臨むことができました。結果、男女ともに北信越大会出場を決めました。しかし、結果を出せたことよりも最後の最後に部全体で一丸となれたことが、何よりもうれしかったです。

■男子バドミントン部

新人戦は、団体戦が惜しくもベスト8という結果で終わり、メンバー全員が悔しい思いをしました。メンバーがガラリと変わって挑んだ高校最後の総体の団体戦では、残念な結果になりましたが、個人戦では二年半の集大成として後悔のない試合が自分ではできたと思いました。部活動を通して技術面はもちろん、それ以外のことも多く学ぶことができ、自分自身を成長させることができました。

■女子バドミントン部

先輩方の時代は個人で強い人が多くて大会ではベスト4に入る実力がありませんでした。私の時代では先輩のように抜き出て強かった人はいなかったと思います。一年生も加わって新チームでの団体戦で心の変化が起きました。地区大会の時のことです。私はダブルスで出させてもらったのですが、十分に力を発揮できず、負けてしまいました。その語の試合はチームメイトのおかげで勝利することができました。一人じゃなく、仲間がいることはこんなにも心強くなれるのだと改めて学ぶことができました。

■剣道部

経験者もいる中、初心者もいて最初はやはり教えるのも難しかったですが、チーム一丸となって切磋琢磨し合ってきました。剣道は個人競技だと思う人もいるかもしれませんが、しかし、剣道にも団体戦があり、一人だけが頑張れば良いという訳ではありません。大会では良い結果をなかなか残せずにはいます。思うようにいかず、悔しい思いをする人もいます。しかし、全員がその試合から次の試合にどのように繋げていくかを考えることで次の課題を見つけることができると思います。

■男子テニス部

皆で総体という目標に向かって、厳しい練習を乗り越えることができました。一番印象に残っているのは、やはり総体です。団体戦では、一人ひとりが、皆の団結力が応援をしている後輩たちにも届くような試合をすることができました。テニス部の団結力を証明することができたと思います。

■女子テニス部

あまり輝かしい結果は残せず、総体での試合も悔しいものに終わりましたが、三年間諦めずに頑張ったことで、忍耐強く向き合う力をつけることができました。こういった事はこの先の人生でもきっと、役立つと思います。達成感や共にそれを乗り越えた仲間との絆を得ることができました。そして、自分たちがどれだけ人に支えられているかを知ることができました。

■フェンシング部

全国選抜大会の石川県予選、その試合に勝てば全国大会に出場できるという試合でした。相手は全員二年生だったので、こちらのチームは二年一人、一年三人という試合でした。結果は勝てたのですがその勝利には二年生がチームを引っ張り西高フェンシング部が一丸となり戦えました。個人で戦うというのも楽しいですが、特に団体で戦う時のチーム一丸となって戦っているという感覚・プレイヤーでなくても西高フェンシング部として応援したり試合で勝った時にチームで喜ぶ瞬間がとても楽しいと感じられます。

■卓球部

「総体ベスト8」を目標に、基礎に重点を置いて練習メニューを工夫したり、大会で最高のパフォーマンスができるようにトレーニングを毎日行ってきました。二年半卓球部に所属し、卓球の技術だけでなく、礼儀や努力の大切さなどを学ぶことができました。

■ソフトボール部

総体で優勝し、インターハイに出場する自分たちを想像しながら、冬の辛い練習も全員で乗り越えました。そして迎えた総体。目標の「インターハイ出場」には届きませんでしたが、練習の成果を全て出し切り北信越出場の切符を勝ち取ることができました。今までの努力は決して無駄じゃなかった、そう思えた瞬間でした。

■弓道部

弓道は「正射必中」という言葉があります。これは正しい射法で射られた矢は必ず中するという意味であり、裏を返せば、勝ちたいという邪念や的への執着心が射形を崩し、矢を正しい射法で射ることをできなくするという事です。私が実際にこの言葉を痛感したのは大会直後でした。いつも練習している場所といえども、本番は不安や焦り、昂りなど様々な感情が入り混じる独特なものです。それゆえに弓道では射の技術はもちろんのこと、精神面での成長も欠かせません。

■水泳部

水泳部の活動は、主に新人戦と総体への参加です。がないため、練習はいしかわ総合スポーツセンターで行っています。長く競技をしている人も多く、毎年北信越大会に数名出場しています。競泳や飛び込みは個人競技で、試合に懸ける思いは人それぞれです。しかし、一人一人の目標を達成するには、仲間が必要だと思っています。一緒に練習する仲間、切磋琢磨し合えるライバル、応援し支えてくれる家族、そして部員の事を第一に考えてくれる先生方など、周りにたくさんの人がいるからこそ頑張れるということを常に心に留めていることが大切だと感じました。

合唱部

私たち合唱部は少人数だからこそより仲が良く、誰かが歌い出したら一緒に歌うなど、毎日笑いと歌声で溢れている個性豊かな部活動です。また主に合同音楽会やアンサンブルコンテスト、西高祭や地域の敬老会など歌を通して様々な活動を行っており、日々の練習に励んでいます。

美術部

総文では金沢二十一世紀美術館に他校の作品と一緒に展示してもらい、金沢地区美術展は金沢駅のもてなしドームに展示させてもらうことで、学生や地域の人に関わらず、旅行者や海外の方など多くの人に私たちの作品を見てもらい良い機会になりました。学校内の活動ではクラス内の掲示物や自転車の施錠を呼びかけるポスター作成、西高祭での創造空間、模擬店の装飾作成など美術部として様々なイベントで活躍しました。西高校で生活している中でその作品たちが目に入ることも多かったと思います。

放送部

主な活動はお昼休みの校内放送です。毎週火曜日のお昼休みに生徒のみなさんから寄せられたリクエスト曲を流しています。また、番組の中で質問コーナーを作り、直接聞けないような先生方への質問を代表として聞きに行き、それを伝える時もあります。また、今年から毎朝、校歌を流して全校生徒が校歌を覚え、朝学にスムーズに取り組むための活動も始めました。放送コンテストではアナウンス部門と朗読部門に分かれて出場し、良い結果を残すことはできませんでしたが、人前で話す良い経験となりました。

かるた部

総文と新人戦以外にもたくさんの大会に挑戦してきました。人数に比べ部室も狭く、温度調整も難しいという他の学校に比べ少し環境の悪く、少しずつみんなが強くなっていくのをお互いに実感することができていました。そして挑んだ総文では団体H部優勝という成績を残すことができました。今年はさらに、百人一首の聖地である滋賀県の近江神宮で開催された全国大会の個人戦に二、三年生が参加しました。初めての全国という舞台上緊張感もあり、雰囲気圧倒されました。

吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、「Supiritoso 精神込めて日々向上」を目標に石川県吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストをはじめ、西高祭や入学式などの式典、保育園や病院での演奏など様々な活動を行ってきました。その中でも思い出深いのは、定期演奏会です。生徒中心で曲決めや台本の作成などをさせてもらえたことで多くのことを経験できました。今年は基礎合奏にも力を入れました。今までやってきた練習を見直し、部員たちで新しい練習を考え、自分たちの課題により向き合うために生徒合奏を増やしました。

英語研究部

私たちの主な活動は、英語劇、ディベート、スピーチ、そして、パーティーです。英語研究部は、ハロウィン、クリスマス、さらにはバレンタインと、事あるごとにパーティーしちゃいます。実質パーティー部みたいないところがあります。

写真部

活動としては年に二回開催される展示会への出品、兼六園や長町武家屋敷、ひがし茶屋街へ行っての撮影会などがあります。その他にも外部の大会やコンクールに出品することもありました。中でも一番印象に残っているのは「民家の甲子園」です。上位六組が翌月に開催される全国大会に出場できるというものでした。結果はなんと五位、翌日から全国大会への準備をしました。全国大会では結果は残すことはできませんでしたが、他校の写真はどれもすばらしく、とても良い経験になりました。

華道部

主な活動は週に一回放課後に集まり花を生けること、そして西高祭での生け花の展示です。流派は草月流で、見た目は少し難しそうに見えますが、福島先生が丁寧に優しく教えて下さるので、とても楽しく生けることができます。また、季節によってフラワーアレンジメントやクリスマスリースを作ることもあります。西高祭での展示が華道部の最大の見せ場です。皆で重たい花器を運んだり、白い布を敷いたり、とても大変ですが、達成感を得ることができました。

茶道部

外部から小松宗孝先生をお招きして、基本的な作法からお点前の稽古まで、三年間を通して本格的に様々なことを学ぶことができました。今年の四月には、オーストラリアのテリガル高校から来た先生や生徒の皆さんにお茶とお菓子でもてなしをしました。また、茶道部は毎年の西高祭でお茶会を開いてきました。大徳公民館の方々に助けいただきながら、たくさんのお客様の目の前で点前をして、お茶と季節のお菓子でもてなしました。

■ 科学部

科学部には、以下の二点の特徴があります。一点目は、身近な現象から科学の精神を育むことができることです。科学部の普段の活動では、苺のジャムを作ったりしていました。文化祭では、ポップコーンやべっこうあめを作りました。二点目の特徴は、総文の期間や夏休みなどに石川県内の大学が、高校の科学部を対象に開催する実験・実習セミナーに毎年参加していることです。そこでは、自然科学系の研究者による講義や実験・実習を体験できます。

■ パソコン部

活動日が週に一日だけで他の部活動と比べると活動が少ない部ですが、西高祭の前だけは忙しくなっていました。西高祭では部員が作成したものの展示をさせていただきました。今年の西高祭でも僕達が思いつかないような工夫をした後輩がいたりし、その場は盛り上がっていたと思います。

■ 家庭部

家庭部は、週に一～二回活動しているととても楽しい部です。主な活動は手芸ですが、月に一回、調理実習をしていて、それが楽しみでした。調理実習は、今年は同じ学年の人とグループを作ってやったことが多かったですが、他学年と合同のグループでやっていた年もあって、先輩・後輩でのより深い交流の時間となりました。メニューから材料の買い出し、作り方を調べるのも全部自分たちでやるので、今まで自宅ではやらないような経験にもなるし、いつもやってくれている親へのありがたさにも気付ける良いきっかけとなりました。

■ 棋道部

我々の目標は三人一組の団体戦で全国大会に出場するというものでした。しかし、強豪校がいくつかあるため、目標を達成するためにはより一層力をつける必要がありました。そこで、定期的自主練習だけではなく、外部の大会に出場するために県を越えるなどして、自分が知らない相手と対局をする機会を増やしました。男子は準優勝という結果でしたが、女子は見事優勝し全国大会に出場しました。部員に女子が三人しかいない中でこのような功績を残すことができたのは驚くべきことだと思います。

■ 図書文芸同好会

毎年総文では、松任駅前の「千代年の里俳句館」に石川県内の学校から文芸部・同好会が集まります。午前中は、講師の方の文芸作品の書き方の話を聞きます。午後からは、散文部門、詩部門に分かれて各学校の部長、副部長を班長とした班を作り、読んだ作品の感想を話し合い、その内容を発表します。

■ 軽音楽同好会

軽音楽同好会は、令和元年に新しくできた同好会で、二人から始めた同好会も今では三年生七人、一年生十四人、計二十一人にまで増えました。私たちの主な活動は、約月一回のペースの部内発表会、ボランティア、校内でのライブ、文化祭での発表などです。

恩師は今……

- 山 越 善 耀(校長)
石川県立生涯学習センター館長
- 平 瀬 方 識(教頭)
石川県立鹿西高等学校教頭
- 西 村 早 苗(国語)
石川県立野々市明倫高等学校
- 小 林 樹 実(地歴公民)
石川県立小松高等学校
- 橋 本 憲一郎(数学)
石川県立鹿西高等学校
- 寺 井 千 春(数学)
石川県立金沢泉丘高等学校
- 久 保 周 子(理科)
石川県立内灘高等学校
- 磯 野 峰(理科)
石川県立金沢錦丘高等学校
- 大久保 翔 貴(音楽)
石川県立金沢北陵高等学校
- 木 村 裕 二(英語)
石川県立金沢泉丘高等学校通信制課程
- 堀 まりあ(英語)
石川県立鶴来高等学校
- 舘 由香利(養護)
石川県立工業高等学校
- 中 川 陽 子(司書)
石川県立内灘高等学校

進路状況

2020年3月卒業生348名の進路状況は、4年制大学が268名(77%)、その内訳は国公立大学72名(21%)、私立大学196名(56%)となっている。また短期大学は19名(5%)、専門学校等は41名(11%)、就職は3名(1%)、未定は17名(5%)であった。地方別にみると、4年制大学は、北海道が1名(国公立大1) 0.3%、関東が13名(国公立大2、私立大11) 3.7%、中部が、石川県内180名(国公立大35、私立大145) 51.7%を含む218名(国公立大63、私立大155) 62.6%、近畿が28名(私立大28) 8.0%、中国が5名(国公立大3、私立大2) 1.4%、四国が1名(国公立大1) 0.3%、九州が2名(国公立大2) 0.6%となる。短期大学は、19名すべてが中部で5.5%、うち石川県内は18名5.2%、専門学校等は石川県内が35名で10.1%、石川県外が6名で1.7%であった。

一方、受験状況を見ると、大学入試センター試験の出願者は319名(92%)で、国公立大学への出願者はのべ309名(推薦・AO35、前期131、後期80、中期・独自63)、受験者はのべ243名であった。また、私立大学の受験者はのべ1,605名、そのうちセンター試験利用入試出願者はのべ420名。短期大学の受験者はのべ63名、そのうちセンター試験利用入試出願者数はのべ18名であった。

また、既卒生を合わせた合格状況では、合格者ののべ人数は、国立大38名、公立大52名で国公立大学合計90名(推薦18、AO1、前期54、後期8、中期9)、私立大学622名(推薦15、AO等13、一般594うちセンター試験利用164)、短期大学60名(うち国公立短大1)、専門学校70名となっている。国公立大学合格者を地方別にみると、北海道1名、東北2名、関東2名、中部77名(うち石川43)、中国5名、四国1名、九州2名であった。主な合格先は、筑波大(1)、名古屋工大(1)、金沢大(5)、富山大(21)、福井大(2)、石川県立大(9)、石川県立看護大(6)、公立小松大(21)で、金沢大の合格学類は、人文(1)、法(1)、経済(1)、地域創造(1)、地球社会基盤(1)、富山大の合格学部は、経済(6)、理(2)、医(1)、工(7)、芸術文化(3)、都市デザイン(2)であった。また、私立大学合格者を地方別にみると、関東37名、中部494名(うち石川451)、近畿84名、中国5名、九州2名で、主な合格先は、青山学院大(1)、法政大(1)、明治大(2)、同志社大(1)、立命館大(4)、関西大(1)、金沢工大(110)、金沢星稜大(152)であった。

2016年から2020年度の5年間でみると、進路状況は、平均で4年制大学77%(国公立大19%、私立大58%)、短期大学5%、専門学校12%、就職1%、その他4%で年度による大きなばらつきは見られない。国公立大学においては、2018年度の合格者が94名で過去最高、2020年度が90名で過去3番目の多さとなった。難関大では、北海道大に2名(2016、2018)、東北大に1名(2017)、筑波大に1名(2020)の合格者を出した。金沢大には合計29名(人間社会15、理工10、医薬保健2、文系一括1、理系一括1、年度順では5、5、10、4、5)が合格。富山大には合計78名(人間発達12、経済24、理6、医4、工24、芸術文化5、都市デザイン3、年度順では13、14、19、11、21)が合格した。私立大学においては、ここ数年の入学定員管理の厳格化により入試が難化し、難関私立大の合格者数は減少傾向となった。主な大学の合格者数は、青山学院大(5)、法政大(2)、明治大(7)、同志社大(5)、立命館大(27)、関西大(20)、関西学院大(3)、京都産業大(126)、龍谷大(52)、近畿大(46)、金沢工大(606)、金沢星稜大(735)であった。また、県内私立大合格者は全私立大合格者の68.2%を占めており、その内訳は、金沢星稜大23.7%、金沢工大19.6%、金沢学院大7.1%、北陸大6.6%、金城大6.5%、北陸学院大3.3%、金沢医科大1.4%。短期大学においては、県内短大の占める割合は85.5%、専門学校では看護専門学校が全専門学校の52.7%を占めた。

進路状況報告

大学等合格者数一覽(2016~2020年度入試)進路指導課

●国立大学

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
帯広畜産大					1
北海道大	1		1		
弘前大		1			
岩手大				1	
東北大		1			
秋田大		2	1	1	
山形大			1		
福島大	1				
茨城大	1				
筑波大					1
宇都宮大		1	1		
上越教育大	2	2	2		1
新潟大		1	3		3
富山大	13	14	19	11	21
金沢大	5	5	10	4	5
福井大	2	1	2	2	2
山梨大					1
信州大	1	2	1	2	
静岡大	1				
名古屋工大					1
滋賀大				1	
和歌山大	1				
鳥取大			1		
島根大		1		1	
山口大		1			
徳島大		2			
愛媛大			1		
高知大					1
琉球大			2		1
国立大合計	28	34	45	23	38

●公立大学

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
岩手県立大		2			
宮城大	1				
秋田県立大	1		1		2
県立米沢栄養大					
高崎経大	1	6	1	2	1
前橋工大	1	1			
長岡造形大				1	
新潟県立大	1	1	1		
富山県立大	1	1	3	5	1
石川県立大	9	10	6	6	9
石川県立看護大	5	3	4	4	6
金沢美術工芸大	1	1		1	2
公立小松大			19	12	21
福井県立大	1	2	4	1	3
都留文科大	1	1	1		1
山梨県立大	1			1	
長野大		3	3	1	
長野県立大			1	1	
静岡文化芸大	1		1		
愛知県立大			1		
滋賀県立大	1	1			
福知山公立大				1	
兵庫県立大	3	1		1	
奈良県立大	1	1			
公立鳥取環境大					2
島根県立大			1		1
岡山県立大	1			1	
新見公立大				1	
尾道市立大	1	3		1	1
広島市立大			2		1
広島県立大			1		
下関市立大		1			
北九州市立大					
長崎県立大	2				
名桜大	3				1
公立大学合計	37	39	49	40	52
国公立大学合計	65	73	94	63	90

●私立大学

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
酪農学園大	1				
東北芸術工大	1				
常盤大			2		
流通経済大				1	
国際医療福祉大		1	2		
群馬バース大		1			
城西大		2		1	
東京国際大					1
獨協大	1	1			
日本工大				1	
江戸川大			1		
川村学園女子大			1		
神田外語大	1				
国際武道大				1	
淑徳大		1		1	
城西国際大		1			
千葉工大				4	
千葉商大	3				
青山学院大	1		1	1	2
亜細亜大		2			
跡見学園女子大	2				
桜美林大	1			1	

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
北里大				1	
工學院大	1				
国土館大	2	1	1	1	1
駒澤大	4	3		3	2
駒沢女子大		1			
産業能率大			1		1
順天堂大				1	
白百合女子大				1	
杉野服飾大					1
成蹊大					2
成城大		2			
専修大	2	1		3	2
創価大	1				
拓殖大	3	2	1		1
玉川大	3		2		1
帝京大		6	2		2
帝京科学大	1				
帝京平成大			1		
東海大	1		1	1	4
東京家政大			2		
東京経大				1	
東京工科大	1			3	
東京工芸大		2	1		
東京女子体育大			2		
東京聖栄大				1	
東京電機大					1
東京都市大					1
東京農大		2			
東洋大	4	1	2	3	2
東洋学園大		1		1	
日本大	10	2	3	3	5
日本女子体育大			1		
日本体育大	1				
文化学園大	1	1		1	1
法政大	1			1	1
明治大	1	2	1	1	2
目白大				1	
立正大	3				2
神奈川大	2	3	2	5	1
神奈川工科大		1		1	
鎌倉女子大		1			
関東学院大	3				
松蔭大		1			
湘南工科大			1	1	
桐蔭横浜大					1
新潟医療福祉大	2	7		4	1
新潟経営大					1
新潟工科大				1	1
新潟産大		1			
高岡法大		2			4
富山国際大		1		2	
金沢医大	4	7	8	11	14
金沢学院大	36	41	46	45	51
金沢工大	94	170	122	110	110
金沢星稜大	116	160	146	161	152
金城大	41	38	51	21	50
北陸大	18	25	55	46	62
北陸学院大	25	19	21	26	12
仁愛大	1	5	2	2	4
福井医療大			1		1
福井工大	21	32	13	10	11
諏訪東京理大		2			
松本大			1		
岐阜医療科学大	6				
岐阜女子大			1		
中部学院大		3			
東海学院大				1	1
静岡理工科大	1			1	
愛知学院大	3	6	2		1
愛知工業大					1
愛知淑徳大	3				1
至学館大			1		
旭山女学園大		1			
中京大	3	12	6	2	2
中部大	3	8	5	1	1
東海学園大		1			1
同朋大			2		
名古屋外大	2	3			
名古屋学院大	3	9	1	1	8
名古屋学芸大		3		1	
名古屋商大		2			
名古屋女子大		2	1		
名古屋造形大			4		
名古屋文理大			2		
南山大					3
日本福祉大	4	4			1
名城大	2	3		3	
皇学館大				1	
鈴鹿医療科学大		2			
四日市大				1	
成安造形大	2	1		1	3
長浜バイオ大			4		2
びわこ学院大	2				2
大谷大			1		2
京都外大		1	1		
京都光華女子大	1			1	2

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
京都産業大	29	53	20	10	14
京都女子大		6			1
京都精華大				2	
京都先端科学大					2
京都造形芸大					2
京都橋大	12	3			1
ノートルダム大				1	
京都文教大	3			1	
同志社大	1	1	1	1	1
同志社女子大	1	2			
花園大		1			
佛教大	3		3		6
平安女学院大				1	
立命館大	5	4	10	4	4
龍谷大	19	14	5	10	4
追手門学院大		1		1	2
大阪学院大					2
大阪経大	2	6	2	5	2
大阪経済法科大		4	1		
大阪芸大					1
大阪国際大				1	
大阪産大	3	8	1		4
大阪商大		1			
大阪樟蔭女子大		1		1	
大阪体育大	1				2
大阪成蹊大				1	
大阪電気通信大		2		2	
大阪人間科学大	2	1			
関西大	11	4	3	1	1
関西外大	3	7		3	
関西福祉科学大		1		3	1
近畿大	11	18	8	2	7
摂南大		2	2	3	
千里金蘭大		1			
桃山学院大	4		6		
桃山学院教育大					3
大手前大		1			
関西学院大		1		2	
関西福祉大	1				
甲南大	2	1			
神戸学院大				1	2
神戸松蔭女子大					10
神戸女子大				1	
神戸親和女子大					1
奈良大		1	2	3	1
岡山理大	1				4
広島修道大		1			
福山大					1
安田女子大			1		
西南学院大					1
福岡大					1
私立大合計	562	760	595	559	622

●短期大学

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
岐阜市立女子短大			1		
静岡県大短大部					1
長野県短	1				
国学院北海道短					1
城西短				0	
青山学院女短大		2			
有明教育芸術短				1	
大妻女大短大部	1		2		
共立女子短大			0		
女子栄養大短大部				1	
帝京短大				1	
東京交通短				1	
目白大短大部				1	
富山短				1	
金沢学院短	6	1	1	1	12
金沢星稜女短大	10	40	16	26	35
金城大短大部	7	8	4	2	3
北陸学院大短大	10	4	5	5	5
小松短大		6			
福井医療短	1				
中日本自動車短	1				
愛知学院大短大					1
名古屋文理大短大部			1		
大谷大短大部		1			
龍谷大短大部		1			
大阪芸術大短大部			2		
大阪成蹊短大		1			
関西外大短大部		2	1		
近畿大短大部	3				
武庫川女大短大					3
奈良芸術短大				1	
九州女子短大				1	
短大合計	40	66	38	37	61

●専門学校

学校名	2016	2017	2018	2019	2020
石川総合看護専	13	11	16	17	16
金沢医療看護専	11	12	14	16	16
金沢看護専	1	11	9	14	7
石川県立保育専門	4		1	8	6
専門学校合計	67	64	63	80	75

卒業期ごとの同窓会活動

『一西会』総会と懇親会を開催

第1期生(昭和52年卒)

石川県立金沢西高等学校を昭和52年3月に卒業した第1期生は、卒業後四十余年が過ぎ、とうとう還暦を迎えることになった。

これを機に、恩師を囲んでみんなと顔を合わせ、あの頃の記憶を辿ってみようと同窓会を企画した。

金沢市緑が丘の仮校舎を体験した唯一の学年であり、その後の母校発展を長きにわたって見つめ続け、すべての西高生の先輩として各分野で頑張ってきた。その思いを込めて『一西会』を立ち上げて、生ある限り後輩たちの範となることを誓い合った。

(平成31年2月16日)

平成31年2月17日北國新聞



お知らせ

石川県立金沢西高等学校 同窓会総会議決権行使のお願い

同窓会ホームページのトップページにある「令和2年度石川県立金沢西高等学校同窓会総会」をクリックし、それぞれの議案につき賛否をクリックしてください。なお、賛否のご表示がない場合は、賛成の意思表示があったものとしてお取り扱いさせていただきます。(令和3年2月15日までお願いします)

議決権フォームのURL

<https://kanazawa-nishi.jp/giketsu/>

詳しくは別紙をご参照ください。



重要なお知らせ

石川県立金沢西高等学校は令和5年秋に創立50周年を迎えます。同窓会幹事の皆様には『創立50周年準備委員会』のメンバーとして様々な役割を担っていただく予定です。令和3年から準備作業を実施していきます。同窓会事務局からの連絡がありましたらご協力のほどよろしくお願いいたします。



石川県立
金沢西高等学校
同窓会

飛 翔

〒920-0344 石川県金沢市畝田東3-526
TEL 076-268-4321/FAX 076-268-7329
URL <https://www.ishikawa-c.ed.jp/~nishih/>

印刷・デザイン ヨシダ印刷株式会社
〒921-8546 石川県金沢市御影町19番1号
TEL 076-241-2141/FAX 076-243-4515
URL <https://www.yoshida-p.jp/>